

新県立野球場構想策定支援業務委託 基礎資料



石川県県民文化スポーツ部スポーツ振興課

石川県立野球場の概要①

- 石川県立野球場は、金沢市郊外「北陸自動車道」西インター近くの「西部緑地公園」内に位置しており、陸上競技場や産業展示館とともに、「スポーツ」と「にぎわい」の拠点を形成している。
- 春夏の甲子園に向けた石川大会の決勝戦が開催されるなど、まさに本県高校野球の聖地である。
- 昭和49年建設(築47年)で老朽化しており、両翼が91.5mと現行のプロ規格(99.06m)を満たしていない。

< 建設予定地 >



< 西部緑地公園 >



石川県立野球場の概要②

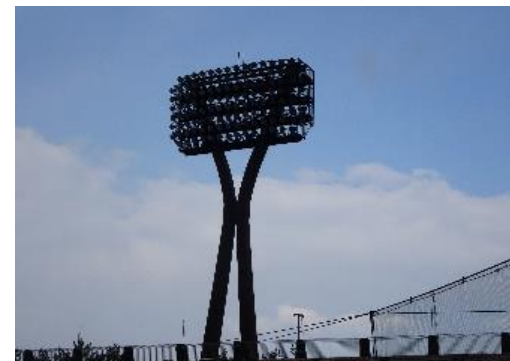
【施設概要】

所在地	石川県金沢市北塚町東220番地	
竣工	昭和49年6月	
建物構造	鉄筋コンクリート造2階建、陸屋根、2階建	
建築面積	7137.76㎡	
(内訳)	スタンド	4,532.20㎡
	事務室	474.91㎡
	倉庫	1,504.63㎡
	機械室兼電気室	151.11㎡
	倉庫	474.91㎡
観客席	17,126人(内野11,126/外野6,000)	
グラウンド面積	14,066㎡、内野クレー/外野天然芝、中堅122m/両翼91.5m	
工作物	夜間照明施設 昭和56年6月竣工、6基、鉄骨造、高さ37.4m、各124灯	
	スコアボード 平成10年3月竣工、メッセージ表示部約18㎡	

【外観】



【照明塔】



【スコアボード】



新県立野球場の整備に向けた検討項目①

- 整備の視点
- ①いしかわの未来を担う子どもたちに夢と希望を与える野球場
 - ②スポーツや賑わいの拠点となる野球場

【検討項目】

○ 新県立野球場整備のコンセプト

○ プレー環境を優先したフィールド（ただし、ドーム球場を除く）

→公認野球規則（プロ）以上の広さ、芝・土等の仕様、室内練習場

○ 観客目線で楽しく、高揚感があふれる空間づくり

→臨場感が溢れる観客席数・配置、非日常的な雰囲気演出する配色

○ スタッフが管理しやすい設備の導入

→競技附带設備、警備設備、館内モニターなどを一元化管理

○ 過剰な設備を抑え、利用者増を図る「安定経営」の維持

→長寿命・低管理コスト設備の導入、広告収入などによる収益向上



- 整備の視点
- ①いしかわの未来を担う子どもたちに夢と希望を与える野球場
 - ②スポーツや賑わいの拠点となる野球場

【検討項目】

- **人が賑わう空間づくり【重要】**

※野球以外のスポーツ施設（海外含む）も調査のうえ、具体の方策を提案すること



- **野球のみならず他スポーツが体现できる施設**

→少年野球・ソフトボールでの利用、コンコースなどデッドスペースの有効活用

- **ユニバーサルデザインによる安全性への配慮**

→バリアフリー、エレベーター、車いす観客席、授乳室、キッズルームなどの設置

- **利用者へ配慮した施設の充実**

→外野席用トイレ、売店・カフェ、自動販売機の設置、ミストシャワーなど

- **環境負荷軽減を目指した施設づくり**

→カーボンニュートラルへの積極的な導入（雨水利用、太陽光発電等）



- **ICTの進歩に対応したシステム導入**

1. 県立野球場の現状

→沿革、規模、利用実績、収支決算、運営方法等

2. 野球競技の動向及び本県の野球環境等

→高校野球部員数の推移、プロ野球開催の見込み
県内外の野球場、甲子園の県勢の戦績等

3. 新県立野球場整備のコンセプト

4. 新県立野球場の機能・規模・配置等

→プロ野球を誘致できる規模・設備水準
プルペン、室内練習場

5. 年間を通じた賑わいの創出

※野球以外のスポーツ施設（海外含む）も調査のうえ
具体の方策を提案すること

6. 設備・システム導入計画

→スコアボード、音響、照明、芝の管理等

7. 環境配慮手法の検討

→太陽光発電、雨水利用等

8. ユニバーサルデザイン手法の検討

→バリアフリー、エレベータ、キッズルーム
熱中症対策等

9. 安定経営に向けた方策

→利用料金額、利用料金項目、減免規定
利用促進や広告収入などの収益向上
売店などのテナント

10. 事業手法・整備スケジュール

→P F I 導入の可能性
建設に向けた園内改修順番、設計期間、建設期間など

11. 概算事業費・維持管理費（収支見込み）

→事業費（設計・監理費含む）、維持管理費